

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

絶妙の掛け合いで “エコ”の心を響かせる

第26回 NHK全国大学放送コンテスト
音声 CM部門1位

● KBC 関西大学放送研究会 経済学部3年次生
竹田 健一郎 さん

昨年12月に開催された第26回NHK全国大学放送コンテストの音声CM部門で、KBC関西大学放送研究会が1位の栄誉に輝いた。「響かせよう、エコの心」というタイトルで、“エコ”に“エコー”をかけた言葉遊びが冴えた作品。企画・制作し、自ら声の出演もした竹田健一郎さんに、作品の狙いなどを聞いた。

(男) なあなあ、地球環境について考えたことある？

(女) この前、飛行機でいちばん安い席に……。

(男) それはエコノミーや。

(女) えーっ、そういえば健太君がこの間、テストで100点取ってたって。

(男) それは頭のええ子や。つまりはな、エコロジーや、エコロジーや、エコロジーや……。

(女) えーっ、何でエコーかかっているん、かかっているん、かかっているん……？

(男) エコの心を響かせたいんや、たいんや、たいんや……。

(男・女) 心に響け、エコ魂。

(女) KBC関西大学放送研究会。



竹田 健一郎 — たけだけんいちろう
■1988(昭和63)年、愛媛県生まれ。香川県で育ち、香川誠陵高等学校卒業。経済学部3年次生。KBC関西大学放送研究会所属。第26回NHK全国大学放送コンテスト音声CM部門1位。

「響かせよう、エコの心」のタイトルどおり、この30秒のCM作品はエコーがよく効いて、終わったあとも掛け合い口調のおかしさが耳に残響している。

今回のテーマが「エコ」と決まったとき、竹田さんはもっと複雑な作品を考えたが、途中からよりシンプルでわかりやすいコメディ要素も取り入れた楽しいものに切り替えた。

「子どもから大人まで、幅広い年齢層にエコロジーを意識してもらうため、『わかりやすさ』をモットーに、言葉遊びの要素も入れてテンポよく進めることに力を入れました。ツッコミのタイミングや男女の役を変えるなど、いろいろ試してみました。部内で公表したときは、『えせ関西弁ちゃうのん?』みたいな厳しい声も多かったのですが、それは耳に印象を残すための戦略であり、わざとベタベタな大阪の感じを出してみたんです」

それが功を奏したのか、見事1位を獲得した。特に今回は、関西大学のメンバーが実力をを見せて、アナウンス部門で3位、DJ部門で2位と4位の好成績だった。

KBC関西大学放送研究会の活動の中心は、月曜日から土曜日までのお昼休みの放送。ディレクター部、アナウンサー部、ミキサー部の3部門に分かれていて、竹田さんはディレクターを務めている。

「ちゃんと企画し、計算して作り上げると達成感があり、すごく面白い。NHK全国大学放送コンテストには、今年もチャレンジしたいですね。他にはウェブ媒体とメディアミックスし、レスポンスが直に返ってくるような番組もやってみたいです」

気象予報士は まさに“天職”

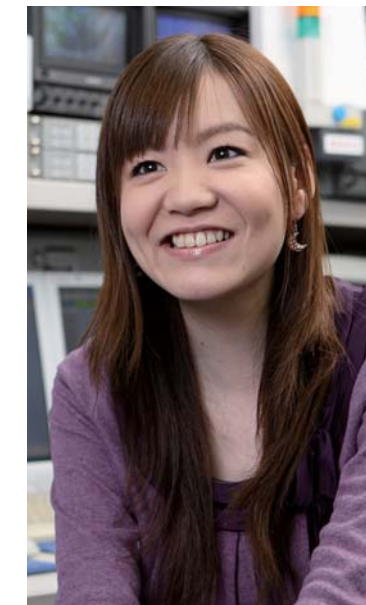
「空が読めるって、楽しくてカッコいい」

● 株式会社ウェザーマップ 気象予報士
美濃岡 洋子 さん — 社会学部 2001年卒業 —

今年の春は寒暖の差が激しく、天候不順で野菜が高騰し、東京では桜の花に雪が降り積もる景色が見られた。雨の用意や服装が気になって天気予報に注目した方も多かったことだろう。そこで真価を発揮するのが気象予報士だ。気象予報士としてテレビで活躍している美濃岡洋子さんを訪ねて、テレビ局(テレビ東京)にお邪魔した。

美濃岡さんが関西大学に入学したのは、「大きな総合大学にあこがれて、これぞキャンパスという感じが自分のイメージどおりだったから」。コピーライターを志望し、植條則夫教授(現名誉教授)のゼミに入った。が、3年次生の夏ごろからモデルの仕事が忙しくなり、東京で暮らす日が多くなった。4年次生になると週1回のゼミのために、なんと飛行機で通学していたというから驚く。「アルバイトのつもりで気軽に始めたモデルの仕事がすごく楽しくて、もっと本格的にやりたいと思い自分から東京に出ていきました。気象予報士は、話す言葉を考えたり文章を書いたりする必要があるのですが、学生時代、コピーライターの勉強をしたことがテクニク的に役立っています」

気象予報士になったいきさつは？
「モデルの仕事をしていたときに、野外の撮影で、たまたま雨が降りそうな空になったときに、カメラマンの方が空模様を見て『この雲があと数十分ほどして行き過ぎたら大丈夫、雨は降らない』と言ったのです。空が読めるってカッコいいなあ、こういうときに自分が教えてあげられたらいいな、楽しいだろうな、と思いました。女性でも年齢を重ねるほど深みが出る仕事、知識や経験を生かしてどんどん良くなる仕事って何だろうと考えていたこともあって、新しい



美濃岡 洋子 — みのおか ようこ
■1978(昭和53)年、大阪府生まれ。2001年関西大学社会学部卒業。モデルを経て、2002年から気象予報士。現在、テレビ東京系「TXNニュース」(土・日)、e-天気.net「That's! 天気予報」(木・金)などに出演。

道が見えてきました」

自然科学の分野の勉強も独学で挑戦し、2002年10月に気象予報士の資格を取得。

気象予報士は与えられた原稿を読むのではなく、自分で判断し、自分で原稿も用意する。視聴者が今、何をいちばん知りたがっているか、優先順位を考えて“削る勇気”が必要という。

美濃岡さんは自身のブログに書いている。「関東地方、今夜の夜桜見物は、折りたたみの傘があると安心」。きょうのオンエアで、この一言、言うべきかギリギリまで迷いました。にわか雨の『可能性』は確かでしたが、今夜の雨雲は小さく、場所は超ピンポイント、どこで急発生するかも予測不能なタイプ。……悩みましたが、言うてよかった。通り雨、思いつきり、都心を直撃しました。知らずに濡れてしまったお花見客にとっては、ひじょーに腹立たしい雨かと思いますが、私は今、おそらく世界一、今夜の雨を喜んでいる人です。スママセンネ。私の予報を見て、濡れずに済んだ人がいれば嬉しいなあ」

こんな文章を読んでいると、天気予報がはずれても、文句を言う気にはならない。四季の変化に富んだ国に住んでいるのだから、季節感あふれる生活をしなきゃ。美濃岡さんの気象予報に注目しよう。